

第6回新県立体育館整備基本計画検討委員会 議事要旨

1 日 時

令和5年8月8日（火）午前9時30分から午前10時35分まで

2 場 所

秋田県庁「正庁」

3 出席者（敬称略）

（1）委 員

熊谷 嘉隆、高橋 義雄、尾崎 宏樹、田中 志穂、千葉 雅也、佐藤 慶子、高橋 周也、水野 勇気、水澤 聡、佐藤 司、納谷 信広 以上11名

（2）事務局

観光文化スポーツ部長、観光文化スポーツ部次長、スポーツ振興課長、スポーツ振興課スポーツ振興監、スポーツ振興課新体育館整備チーム

4 内 容

（1）委員長挨拶

- ・ 今回で6回目の検討委員会となる。前回から持ち越しとなっている論点は、対応競技と優先順位、建物と外構の配置であるが、特に、配置については、憩いの場となっている丘、緑地、遊具に関して様々な意見をいただいているため、このことに十分留意して議論を進める必要がある。
- ・ 対応競技と優先順位については、事務局で取りまとめた案について、配置については、イメージ図ができたということなので、それを見ながら意見交換したい。
- ・ 今回を入れて残り2回となっているが、これまで同様、忌憚のない意見、提案などをいただきたい。

（2）報告事項

① 委員意見要旨について ※資料説明のみ・質疑なし

<委員長>

- ・ 宿題については本日の議題に反映されているので、後で意見を頂戴したい。

② 県民意見について

<委員長>

- ・ No.99の意見を見ていただきたい。丘、緑地、遊具は、市民にとって重要なものであることがこの意見からも読み取ることができる。

(3) 意見交換

① 新県立体育館の対応競技と優先順位の考え方について

<委員>

- ・ 事務局案で問題ない。

<委員>

- ・ 意見ではなく、資料2の補足となるが、北秋田市の鷹巣体育館でも、バレーボールやフェンシングの競技を開催している。

<委員>

- ・ 概ねこの案で良いと思う。

<委員>

- ・ 非常に合理的に整理していただいていると思う。開館後、様々なニーズや要望が出てくるので、それをベースに柔軟に対応していく形が理想的である。

<委員>

- ・ これまでの意見をまとめていただいております、これでよろしいと思う。

<委員>

- ・ この案でよろしいと思う。
- ・ 次のステップでの作業になると思うが、競技毎で規格が定まっております、国際大会に適合する照明、機器、設備などもあるので、そのような水準での整備についても検討してほしい。

<委員>

- ・ 車いすバスケットボールを入れていただき感謝する。先日、能代市にあるアリーナスで車いすバスケットボールの大会が行われたが、参加したチームから、場所が遠いという指摘があり、試合後に大館市や秋田市の宿泊施設に移動し、次の日能代市に戻るということで、選手にとってハードであった。新体育館の場合、秋田市内は宿泊施設が多いので、この点もありがたい。

<委員>

- ・ この案で良いと思う。

<委員>

- ・ 市町村の体育館などとのバランスに配慮した案であり、後は、イベントなどをうまく回していけば良いと思う。この案が良い。

<委員>

- ・ 概ね賛成である。ユーザーが多い競技を優先することは合理的と思う一方、これまでにないアリーナが整備されることになるため、今後、利用が増えていくような競技もあるのではないかと。
- ・ クライミングに関しては、リード、ボルダリング、スピードという種目がある

が、ウォールが足りておらず、練習場所も限られている。高さ15メートルほどを要するため、構造上の制約はあるが、これは検討しているのか。

- ・ 車いすを利用するスポーツに対応していくことは賛成であるが、車いすで激しい動きをするとタイヤの跡がついてしまい、利用を敬遠されるような例もあると聞く。そういったことがないように、床面の仕様も含め、今後、設計段階で検討していけば良いと思う。

<事務局>

- ・ 競技団体と意見交換しており、スピードは対応不要という意見であったので、こうした意見も参考にして、まずはリードということで検討を進めている。
- ・ 車いすバスケットボールに向く床材について、メーカーに聞き取りしている。タイヤ痕を気にする必要がない床材を調査している。

<委員長>

- ・ 対応競技、優先順位とも、この案を基本に進めていきたい。個別の課題については、その都度、柔軟に対応をしていくことになると思う。
- ・ 対応競技については、前回の検討委員会で論点となり、今回、その案が出てきたわけであるが、各施設の調査も行っているので、委員全員が概ね好意的に受け止めているという印象であった。
- ・ 優先順位も論点となっていたが、これについても丁寧に調査し、論点を整理しているのので、方向性が見えたと思う。

② 新県立体育館周辺の将来イメージについて

<事務局説明要旨> ※要求水準の考え方に関するものを抜粋

- ・ このイラストは、民間事業者に求める水準をわかりやすく示したものであり、これを最低水準と捉え、さらに機能的で工夫された提案を期待する。
- ・ 中央に描いている丘の頂上は、現在の場所と一致している。丘を全て取り壊すのではなく、丘の頂上付近を残し、それを上手に活用して新体育館と一体化させ、建物の中と行き来できるようにすることは、新体育館に必要な不可欠な機能であり、これを民間事業者に求める要求水準としたい。
- ・ 緑地や遊具を現在の丘の頂上と繋げて整備することについても、新体育館には不可欠であるとして、PFI発注時の要求水準としたい。
- ・ 新体育館は、公共交通の利用を意識して整備し、バスやタクシーのロータリーは、山王大通りに面する場所が良いと考えている。
- ・ 新体育館は、スポーツ施設にとどまらず、常に人が集う地方創生の拠点にしたい。ミルハスのように多くの人が立ち寄り、高校生や大学生が窓際に座って会話し、読書するような光景を実現したいので、貸切イベントのない通常時は、正面エントランスやトイレなどを開放したい。
- ・ 現体育館の解体工事は新体育館の事業とは切り離して発注する予定である。
- ・ スケジュールについても、安全第一というまでもないが、民間の創意工夫により各工程を改善していきたい。

<委員>

- ・ とてもイメージしやすいと思う。丘がこのように残り、新しくなることはとても良いと思う。

- ・ 駐車場から丘を通らずに体育館に入りたい場合に遠くなってしまう。ベビーカーを押している方や車いす利用者が、丘を通らずにスムーズに入館できるようにしてほしい。

<委員>

- ・ 駐車場に関して、学校や団体が来るバスを置く場所は配慮されると思うが、障害者など配慮が必要な方の駐車スペースを検討していただきたい。
- ・ 車いすの駐車場に屋根があると便利である。傘を差すことができないので、当事者の意見も聞きながら、そうした配慮があると非常にありがたい。

<委員>

- ・ 丘が生かされているので非常に良いと思う。私も丘を現地で見してきた。これまではあまり意識していなかったが、行ってみると良い場所であり、それが活きるということはとても大事である。こうした形で上手に丘を活用する必要がある。
- ・ 広場はどのような用途、利用者を想定するのか。今の場所は大きな木があり、休憩する場となっているが、芝生にすると、子どもが走り回って遊ぶだろう。遊具は子ども用を想定すると思うが、果たしてどのようなものが良いか。PFIの提案によるところもあるが、県民、市民がどういう場所を望むのかということにできるだけ寄り添うことができれば良いと思う。
- ・ 個人的には、大きい木が何本かあって、可能であれば、今ある木を移植するというアイデアがあっても良いと思う。

<委員>

- ・ 県民からも、丘のあり方について様々な意見が出されているようであり、公園周辺の住民に大変愛され、親しまれている丘となっているので、そのあり方については、引き続き検討していく必要があると思う。

<委員>

- ・ 丘も含めた整備のイメージ図を示していただいたので、公園の機能や丘がどのようになるのかイメージできるようになった。
- ・ 丘については、市民の関心が非常に高くなっており、先日、地元の八橋地区振興会から丘自体を残してほしいという要望書が提出されている。また、新体育館の整備案については、6月議会で市議会に説明したが、丘を削ることに対しては市議会からの反対も強い状況である。
- ・ 市としては、新体育館を八橋に整備することは望ましいと考えているが、丘を削ることを前提とした計画については、地域住民を始め、市民の理解が必要になるので、慎重に検討をしていく必要があると感じている。

<委員>

- ・ イメージ図を示していただいて大変分かりやすくなった。丘への関心が高いということで話題にもなっているが、丘の頂上を残しながら、さらに使いやすい形で整備できるのであれば、こうした形で進めていけば良いと思う。
- ・ 駐車場から新体育館まで少し距離があるので、アリーナ周辺にもう少し駐車スペースを設ける、障害者用スペースには屋根をつけるなど、そうした配慮がもう少しあっても良いと思う。その分、左下の駐車場に丘が出てくる形になるかもしれないが、そうした配慮と工夫により整備できれば良い。

<委員>

- ・ 県民意見は、全てを残してほしいということではなく、知恵を絞って何とか形として残してほしいという意見と思うが、このイメージ図は、まさにその思いがしっかりと反映されているのではないかと感じた。
- ・ イメージ図を県民にも広く周知し、様々な意見が提出されるとありがたい。近くの幼稚園や保育園から子どもたちがたくさん集まって憩いの場になる、そういう素晴らしい場所になるのではないかと感じた。

<委員>

- ・ 説明を聞いて素晴らしいと思った。県民の意見が反映されている点と、新体育館を活用するに当たって、緑地や遊具、さらに、県立図書館との連携など、様々な効果を考えており、そうしたコンセプト自体が良いと思う。
- ・ 今後、障害者やお子さんのいる方々への配慮というものが、より一層必要となる時代になるため、そういう部分も含め、素晴らしい案である。
- ・ 細かい部分としては、雪、除雪、風向きについて注意が必要であり、他の施設では入口部分の風の問題もあるようなので、雪への対策について、除雪や屋根など配慮してほしいと思うが、素晴らしいイメージである。

<委員>

- ・ イメージ図ができて、多くの方に共有していただけるようになったと思う。
- ・ 注意書きにあるように、民間事業者にはこれを上回る提案を期待したい。新体育館を上手に接続させるアイデアとなっているが、いざとなった場合は、現体育館が全く使えない時期が生じてしまうかもしれないが、現体育館を解体した場所に整備するようなアイデアも含め、様々な提案を期待したい。
- ・ 建物内に併設される各種サービス施設が、地域全体の拠点施設として活用されると思うので、他のスポーツ施設との連携も考慮したアイデアを期待したい。

<委員>

- ・ イメージ図をいただいて大分イメージが深まった。敷地を確保することと丘を残すことの両方のバランスが取れていると思う。
- ・ 屋根に関しては私も賛成である。車いすの方だけでなく、健常者の方であっても、バスロータリーからエントランスまで庇の下を歩いて行けるとすれば非常に便利なので、できるだけ庇を伸ばすような構造が良いと思う。
- ・ 海外の公園では、懸垂や腕立て伏せ、腹筋などができる健康増進のための設備が随所に整備されているのが一般的である。スポーツ医・科学の事業と連動させ、一般向けのエクササイズが丘周辺の遊具でも可能になれば広がりが出ると思う。
- ・ 幼児期に身につけておきたい基本動作というものがああり、それに対応する遊具を網羅的に配置することによって、周辺の保育園や小学校における子どもの体力増進にも繋がる仕掛けができるのではないかと。
- ・ 新体育館の中だけでなく、イメージ図でいうと、アリーナの周辺にバスケットボールのリングを置くだけで自然と若者が集まって練習したり、Bリーグの試合で盛り上がった後に体を動かしたりすると思うので、そうした「する」スポーツの広がりについても議論できれば良い。

<委員>

- ・ 委員の皆さんからご意見をいただき、このプランが非常に合理的にまとめられていると感じている。
- ・ 心配なのは、丘を残してほしいという方の声を聞くと、代替機能を整備してほしいという方よりも、今の丘自体を残してほしいという思いを強く感じる。機能的に合理的かどうかという部分よりも、思いというもの、例えば、学校にある思い出の木のようなものなので、合理的な議論だけでなく、そうした思いに対し、どのような形で説明され、どのように理解されるかを見極める必要がある。
- ・ 地元からの要望書の中には、新体育館の右側にあるメインストリートが八橋運動公園の顔であり、ここも大事にしてほしいという内容である。イメージ図は、児童会館側から眺めたものであるが、反対側はどうなるのかを懸念される声もある。非常に合理的に考えられたプランではあると思うが、丘に思いがある方々の反応を見極めていかなければならないと感じている。

③ 本日の意見を踏まえた次回検討委員会の論点の整理

<委員長>

- ・ 皆さまから建設的な提案をいただき、丘に対する思いの強さも改めて認識したところである。
- ・ 丘自体を残してほしいということと、八橋に新体育館を作ることは基本的には賛成ということはどう両立させるかが悩ましいところであるが、今回示された案を折衷案と捉えてはいけないと思う。丘を含めた八橋運動公園全体に対する思い、もしくは、将来に対する期待、次の秋田を担っていく若者たちに夢を与え、聖地となるような場をどのように整備するのか、そうした総合的な視点から、どうあるべきかが議論されなければならない。
- ・ この手の議論は、どうしても各論に集中し、全体最適が見えづらくなりがちである。合理的に説明し、ポンチ絵で示せばそれで良いかというところでもない。そこに至るまでの地元の思いや、我々の議論、あるいは、子どもたちの将来を見据えて、丁寧に、誠意をもって説明するプロセスが大事になると思う。紙1枚で説明するよりも、一緒に意見交換するような場も必要になってくるかもしれない。
- ・ 様々な懸念があることは理解できるが、私は、基本的には、将来何を目指していくのかという目線合わせができれば、然るべきデザインになっていくので、後は、我々の覚悟、事務局の努力と誠実さが問われてくるフェーズになると思う。
- ・ 八橋運動公園全体の主要なエントランスの一つとして位置付けて、周辺施設との連動性や賑わい創出に繋げていく発想は、とても良いと思う。こうした議論を基本計画の策定段階から行っていく必要がある。
- ・ 然るべきタイミングで、丘だけでなく、周辺地域のニーズをしっかりと調査し、現状を踏まえた上で今後どうしていきたいのかという視点も必要になってくるのではないと思う。
- ・ 意見は出尽くしたと思う。検討委員会は残り1回である。場所、アクセス、駐車場の適正台数、利用形態、利用料金、優先順位、八橋運動公園内における周辺のデザインのあり方など、様々なことを6回で意見交換し、議論することができた。次回は、これまでの議論を整理し、委員の皆さんと確認して、県議会に報告していく流れとなる。
- ・ これまでの真剣な議論に感謝を申し上げたい。本日、各委員から出された懸念や将来に向けての論点については、事務局で整理し、次回に議論したい。

(4) その他

事務局から、次回（最終回）の検討委員会を8月23日（水）午前9時30分から午前11時30分まで秋田県議会棟1階大会議室で開催することを説明した。

また、募集している県民意見については、来週まで提出を受けた分まで、次回の検討委員会に提示することとした。

以 上